



馬場貴也 絶対に勝つ という気持ち



私を揺さぶる、グランプリ。12月16日からポルトレリス住之江で開幕する1年の総決算、SG「第40回グランプリ」に向けた特別企画。「Road to THE GRAND PRIXキャンペーン」と題した企画の第2弾としてトップレーサーの馬場貴也(41)「滋賀」にスポットライトをあてる。過去に出場したGPの振り返り、盟友への思い、住之江への熱意、最高の栄誉をつかむための意気込みなどを熱く語った。
(取材日＝8月23日)

妨害失格のトラウマ

最終Mを回ったのは5番手だった。はるか前に、ゴール目前の毒島誠がいた。同い年の盟友の、グランプリ優勝の瞬間は、ホームストレッチの後方から見えた。悔しさはあったが、祝福の気持ちも湧いた。「毒島さんのガッツポーズを見て、悔しいですけど、素晴らしいものというか、自分の胸に刻まれる景色を見た。いつか、自分もあの位置で成し遂げたいと思った」。昨年グランプリ優勝戦、馬場は4枠から5着だった。1位2位、1位。22年の馬場の賞金ランクだ(チャレンジC終了時点)。3年連続、TR2nd1枠での発進。22年は4着、23年はターンマークに接触、転覆して妨害失格。過去2年があつての昨年1枠。緊張感が包まれた。23年の妨害失格があつたので、昨年は1

不調に苦しんだ時

峰竜太に励まされた

「自信だけは

なくしたらあかんよ」

泣いちゃいました

2nd組は、最初の2日間は調整と試運転に充てる。馬場は本番まで、フラッシュバックと戦い続けた。「2日間の試運転、それしか頭に出てこないから、きつかった」。強烈な映像が頭から離れない。しかも本番直前の11R、菊地孝平がコンマ01のF。もう一つの嫌な思い出がよみがえる。22年GP2nd1回戦、11Rで2艇Fが出た直後、12R1枠の馬場はコンマ20で敗れた。絶対に克服し

今年も苦しい。SGで5、6着を並べることもあった。「グラチャンはきつかった」。湿っぽい梅雨の時期。成績も表情も曇っていた。そんな時、峰竜太が声をかけた。「峰くんが、馬場さん、自信だけはなくしたらあかんよ。絶対大丈夫だからって。僕、そういう気持ちに弱いので、泣いちゃいました」。笑って振り返るところに、復調ぶりが現れている。峰だけでなく、兄弟子の守田俊介、同期の長田頼宗、毒島…。いろいろな人の「サポート」に助けられる。「僕は人に恵まれている」。その点は、1600人のレーサー中에서도、自分が優れていると感じている。

枠番	選手名
1	毒島 誠
2	池田 浩二
3	馬場 貴也
4	峰 竜太
5	菅 章哉
6	守田 俊介

これが俺のグランプリだ。当企画に登場した選手が「理想のグランプリ」出走メンバーを独断で作成。いつか夢の一大番が実現する日がやってくる!?



22年常滑ダービー。自身への決意表明だった。

自己紹介

名前 馬場 貴也

生年月日 1984.8.26

自分の性格 マイナス思考

趣味 バス釣り

特技 時になし

得意な決め手 まくり差し

好きな色 青

好きな食べ物 お肉

一言 グラチャンを獲れるように一歩ずつ張ります!!



22年常滑ダービー。自身への決意表明だった。